

令和5年度 西海市立西海小学校 自己評価書

本年度の重点努力事項

- 1 やさしく (1) 対話や協働的な学びの実現 (2) 人権・平和教育、道徳の実践
- 2 かしこく (1) 「学びに向かう力」を育む授業改善 (2) 体験学習の推進
- 3 たくましく (1) 健全な心身の育成 (2) キャリア教育の推進
- 4 「は・あ・と・ふ・る 運動」の推進
- 5 特別支援教育の充実

評価項目 (評価指標)		そのための具体的な 方策・手立て	評価 ABC	その根拠 (□ アンケートは4点満点)	考察・分析及び改善策等
1	やさしく	○対話や協働的な学びの実現 ○人権・平和教育、道徳の実践	A	<input type="checkbox"/> 友達と協力して活動することができる (児童 3.49) <input type="checkbox"/> 教師の指導、対応 (児童 3.51) <input type="checkbox"/> 人権教育、道徳の実践 (教職員 3.10) (保護者 3.13)	全体的に、素直で優しい心が育ってきている。本年度は、「自分を育てて、みんなで伸びる児童の育成」を学校教育目標として指導してきた。その結果、6年生が主体となり全校で楽しむゲーム集会やカラオケ大会を開いたり、体育委員会児童が朝の元気タイムの企画・進行を行ったりする姿が見られるようになってきた。今後も、すべての児童に主体性を育む努力を継続していくとともに、相手を大事にした言葉遣いを指導していく。
2	かしこく	○「学びに向かう力」を育む授業改善	B	<input type="checkbox"/> 家庭学習の習慣 (児童 3.05) (保護者 2.81) (教職員 2.60) <input type="checkbox"/> 分かる授業 (児童 3.45) (保護者 3.13) (教職員 3.10) (地区学校評価 3.78) <input type="checkbox"/> 主体的に学習に取り組んでいる (地区学校評価 3.67) <input type="checkbox"/> 読書 (児童 3.00) (保護者 2.42) (教職員 2.40)	本年度は、「学びに向かう力」の育成に重点を置いて取り組んだ。児童が課題に集中して取り組むことができるように、教師は1時間の授業プランをしっかりと立てて授業に臨むことを心掛けてきた。まだ課題は残るものの、児童一人一人が課題をもって授業に臨む機会が増えてきている。一方で、家庭学習の定着に関しては、児童と大人とで評価が明確に分かれた。指示された課題に取り組んでいる児童の評価は高いが、指示されなくても学習に取り組んでほしいと願う大人から見ると評価は低い。何のために家庭学習をするのか、児童への啓蒙が課題である。 読書の習慣化に関しては、個人差が大きい。本を手にしらない児童には、教師が図書室へ連れて行き、本に出合わせるところからの手立てが必要である。継続して指導していく。
3	たくましく	○健全な心身の育成 ○キャリア教育の推進	B	<input type="checkbox"/> 粘り強く学習 (児童 3.18) <input type="checkbox"/> ルールを守って行動 (児童 3.27) ・学校保健委員会の取組	本年度は、自分なりの課題を導く「課題発見力」や課題解決のための方策等を見つけ粘り強く取り組む「追求力」を育むことに重点を置いた。 キャリアパスポートを活用し、毎月、目標に対する自己評価を全校同じ時間に行った。その結果、児童は、学習や生活を振り返り、今の自分や学級の課題を捉えるようになった。例えば、混雑する昼休みの運動場(サッカーコート)の使い方について、児童の代表

					が集まって検討し、解決策を見出したり、縦割り掃除の取り組み方について、代表委員会で話し合ったりした。現在の課題は、粘り強く学習に取り組む姿勢や、生活改善に取り組む力である。今後も、継続して指導していく。
4	「は・あ・と・ふ・る運動」の推進	○PTA・コミュニティスクールでの取組 ○地域での取組	A	<input type="checkbox"/> 早寝・早起き・朝ご飯 (児童 3.21) (保護者 3.13) (教職員 2.90) <input type="checkbox"/> 明るいいいさつ (児童 3.11) (保護者 2.88) (教職員 2.50) <input type="checkbox"/> 友達も自分の心も大切 (児童 3.40) (保護者 3.03) (教職員 2.90) <input type="checkbox"/> ふるさと愛する (児童 3.04) (保護者 3.03) (教職員 3.10) <input type="checkbox"/> ルールを守る (児童 3.27) (保護者 2.97) (教職員 3.00)	PTAの取組として、児童が家庭や学校で主体的に楽しみながら取り組むことを目指した「Try pay 活動」を今年度も実施した。11月にPTA主催で開催した「わくわくカーニバル in さいかい元気村」では、集めたpayを使って様々な活動を行い、児童・保護者・地域で取り組む楽しいイベントとなった。 コミュニティ・スクールとしては、学校運営協議会の際に、「は・あ・と・ふ・る」が本校の教育活動の土台であることを周知し、理解と協力をいただいている。また、毎月、「C・S便り」(校長作成)を校区の全世帯に配付し、取組等を紹介している。さらに、ゲストティーチャーとして、地域の方に、農業体験等に入っただき、協力していただいている。 このように、「は・あ・と・ふ・る運動」を旗印にし、PTAや地域と連携することを通して、コミュニティ・スクールの推進につなげることができている。
5	特別支援教育の充実	○校内支援体制の周知 ○校内支援委員会の充実 ○個にあった教育課程と支援体制づくり	A	<input type="checkbox"/> 特別支援教育の充実 (保護者 3.04) (教職員 3.30) <input type="checkbox"/> 教育相談 (保護者 3.03) (教職員 3.40)	児童や保護者に対し、特別支援教室の役割やインクルーシブ教育の理念について説明し、児童一人一人を大切にする学校の姿勢や、特別支援教育に対する理解を図ってきた。 個に応じた支援については、校内支援委員会だけでなく、常時、情報を共有し、全職員による支援態勢を取っている。困っている児童・保護者の支援と同様に、通常学級に在籍する児童への学力保障も行っている。
その他の特記事項 参考資料 ○児童用自己評価結果集計 ○保護者用学校評価アンケート ○教職員用自己評価結果集計 ○地区学校評価委員評価アンケート					